

# WebOTX 製品の ライセンス方式 (第7版)

**2010年12月**

日本電気株式会社  
第三ITソフトウェア事業部

本資料では、**WebOTX Application Server**、及び、関連製品のライセンス体系について記載しています。**WebOTX**のライセンスは大きく分けて以下の**4つ**の種類があります。

## ◆ **CU**ライセンス製品

マシンの**CPU**の数やコア数(マルチコア**CPU**の場合)によりライセンス数が変わる。  
「**CU License**」、「**CPU License**」、もしくは、「追加**CU**」が名称に含まれている製品。

例) **WebOTX AS Standard V8.2 CU License**, **WebOTX Process Conductor V7.1 CU License**

購入の際には、各マシン単位で以下をセットでそろえる必要がある。

- ✓ 基本ライセンス(「**CU License**」等が付加されていない製品) x 1つ
- ✓ **CU**ライセンス x マシンの**CPU**数に応じた数(計算方法は後述)

## ◆ 媒体

最低一つ必要だが、複数のマシンで共有してもよい。  
「**Media**」もしくは「メディア」が名称に含まれている製品。

例) **WebOTX Media**

## ◆ 接続数ライセンス製品

該当製品に接続する数によって必要となるライセンス数が変わる製品。

例) **WebOTX OLF/TP Adapter V7.1(4)**, **WebOTX VIS Connector V7.1(+128)**  
**WebOTX Portal Express V8.2** (20ユーザ毎に1つ必要)

購入の際には、以下をセットでそろえる必要がある(Portal Expressは除く)。

- ✓ 基本ライセンス((4)が付加されている製品) x 1つ
- ✓ 接続数にあわせた、追加接続数ライセンス((+XX)が付加されている製品)


例) **VIS Connector**を利用し、最大接続数が12の場合

**WebOTX VIS Connector(4)**  
**WebOTX VIS Connector(+8)**

## ◆ マシンライセンス製品

各マシンで一つずつ必要。仮想マシンの場合には、仮想マシン毎に必要。上記以外の製品。

例) **WebOTX Administrator V7.1**, **WebOTX AS Web Edition V8.1**, **WebOTX AS Express V8.2**

以降では、複雑な**CU**ライセンス製品のライセンス計算方式について記載します。  
実際に利用する環境に合わせて「」のついている**文字**をクリックすることによって必要な製品の詳細を知ることができます。

## WebOTX 製品 ライセンス計算方式

### 1. マルチコアCPU (デュアルコア、クアッドコア等) 利用時

デュアルコアやクアッドコアといったマルチコアCPUのCU License計算方式について記載しています。従来のシングルコアCPUについても記載しています。

### 2. クラスタ環境構築時

各クラスタ構成における製品購入方法について記載しています。

### 3. 仮想マシン利用時

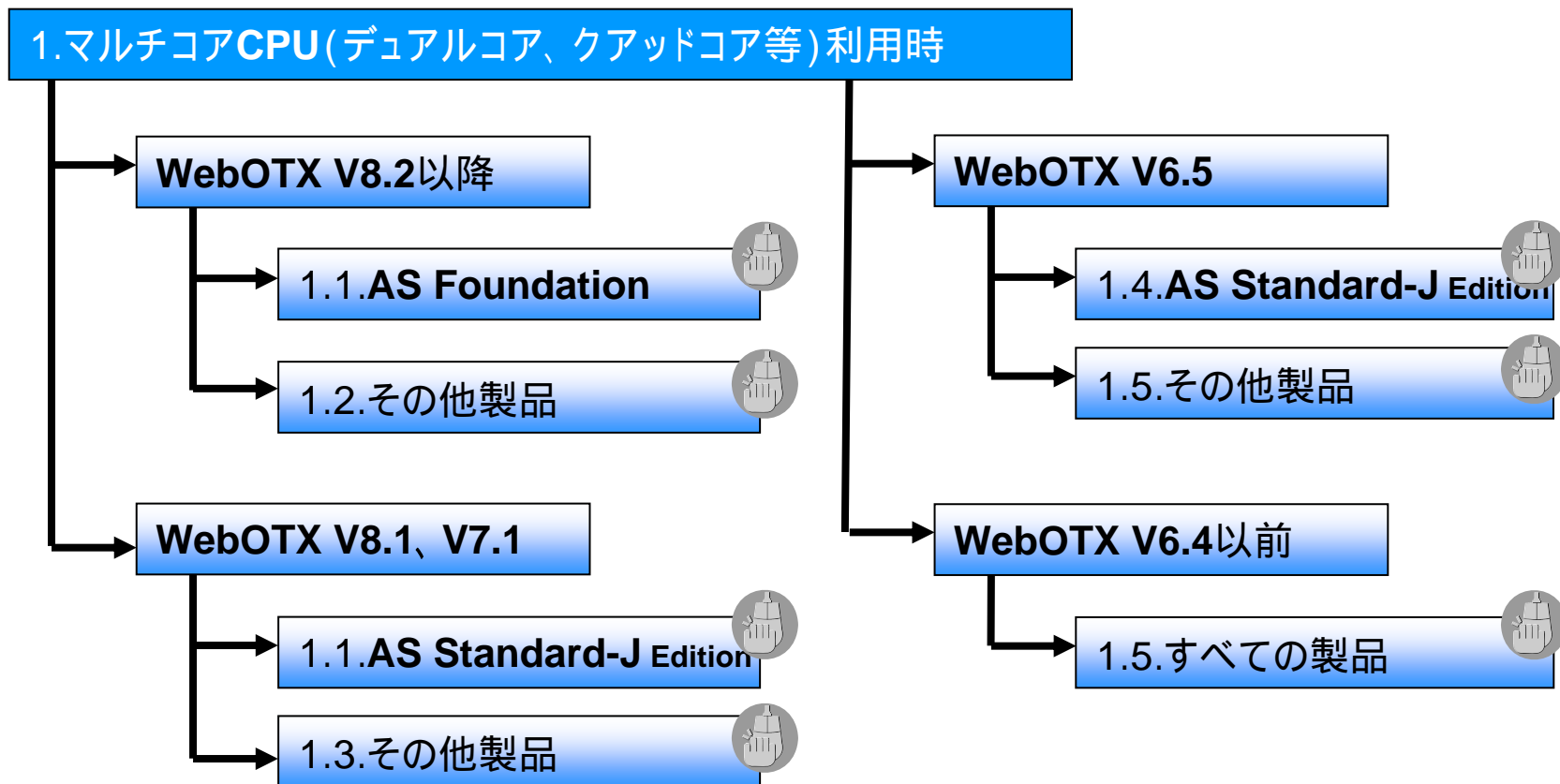
VMWare, Hyper-V, Xen, HP Integrity Servers等により、一つのマシン上に複数のOSを稼動させた場合の製品購入方法について記載しています。

### 4. その他

#### 4.1. Hyper-Threading対応CPU利用時

#### 4.2. Express5800/ftサーバ利用時

#### 4.3. SigmaSystemCenter利用時



## 1.1.AS Foundation、および、V7.1以降のAS Standard-Jの場合

対象製品：**WebOTX Application Server Standard-J Edition V7.1**  
**WebOTX Application Server Standard-J Edition V8.1**  
**WebOTX Application Server Foundation V8.2以降 ( 1 )**

算出方針： コア数に関係なく物理**CPU**数(プロセッサ・パッケージの数)で計算

( 1 ) Foundationは、2CPUまでの制限あり

物理CPU数	1	2	3~4	5~6	7~8	9~16	17~32	33~64	65以上
必要CU数	0	1	2	4	6	8	16	32	別途調整

例) Foundationを物理CPU(それぞれがクアッドコア)を2つ搭載したマシンにインストールする際は

物理CPU数は2なので、必要CU数は1つとなる。よって以下を購入すればよい

**WebOTX Application Server Foundation V8.2** x 1  
**WebOTX Application Server Foundation V8.2 CPU License** x 1

## 1.2.AS Foundationを除く、V8.2以降のWebOTX製品の場合

**対象製品：**

- WebOTX Application Server Standard V8.2以降
- WebOTX Application Server Enterprise V8.2以降
- WebOTX Application Server Standard for Standby System V8.2以降
- WebOTX Application Server Enterprise for Standby System V8.2以降
- WebOTX Object Broker C++ V10.2以降
- WebOTX Object Broker Java™ V10.2以降
- WebOTX Service Repository V8.2以降
- WebOTX Enterprise Service Bus V8.2以降
- WebOTX Portal V8.2以降
- WebOTX 業務拡張オプション V8.2以降
- WebOTX Batch Server V8.3以降

**算出方針：** マルチコアCPUの場合には、CPUの種別に関係なく( 1)、  
「1プロセッサ・パッケージ = 2 CPU」としてCPU数をカウント  
シングルコアのCPUは、「1プロセッサ・パッケージ = 1 CPU」とする

$(\text{総CPU数}) = 2(\text{シングルコアのときは、1}) \times \text{物理CPU数}$

( 1) 1プロセッサ・パッケージに8コアより多くのコアを搭載しているCPUをご利用の場合には、別途ご連絡ください。

総CPU数	1	2	3~4	5~6	7~8	9~16	17~32	33~64	65以上
必要CU数	0	1	2	4	6	8	16	32	別途調整

例) Standardを物理CPU(それぞれがクアドコア)を4つ搭載したマシンにインストールする際  
総CPU数 = 2 CPU(乗率) × 4 = 8となり、必要CU数は6つとなる。よって以下を購入すればよい

WebOTX Application Server Standard V8.2	x 1
WebOTX Application Server Standard V8.2 CU License	x 6

## 1.3.AS Standard-J Editionを除く、V7.1もしくはV8.1のWebOTX製品の場合

**対象製品：**

- WebOTX Application Server Standard Edition V7.1
- WebOTX Application Server Enterprise Edition V7.1
- WebOTX Application Server Standard Edition for Standby System V7.1
- WebOTX Application Server Enterprise Edition for Standby System V7.1
- WebOTX Object Broker C++ V9.1
- WebOTX Object Broker Java™ V9.1
- WebOTX Enterprise Service Bus V7.1、V8.1
- WebOTX Process Conductor V7.1
- WebOTX SIP Application Server Standard Edition V7.1、V8.1
- WebOTX Service Repository V8.1
- WebOTX 業務拡張オプション V7.1

**算出方針：** 総コア数で計算。クアッドコア以上は総コア数を半分にして計算

**総コア数 = 物理CPU数 × 1CPU辺りのコア数(クアッドコア=4,デュアルコア=2,シングルコア=1)**

・シングルコア、デュアルコアの場合

総コア数	1	2	3~4	5~6	7~8	9~16	17~32	33~64	65以上
必要CU数	0	1	2	4	6	8	16	32	別途調整

・クアッドコア以上の場合

総コア数	~4	5~8	9~12	13~16	17~32	33~64	65以上
必要CU数	1	2	4	6	8	16	別途調整

例) **Standard**を物理CPU(それぞれがクアッドコア)を4つ搭載したマシンにインストールする際  
 総コア数 = 4 x 4 = 16となり、必要CU数は6つとなる。よって以下を購入すればよい

**WebOTX Application Server Standard Edition V7.1** x 1  
**WebOTX Application Server Standard Edition V7.1 CU License** x 6



## 1.4. WebOTX Standard-J Edition V6.5の場合

対象製品: **WebOTX Standard-J Edition V6.5**

算出方針: 総コア数で計算。デュアルコア以上で、総コア数が4以下のときは追加CUは1つ少なくてもよい。

総コア数 = 物理CPU数 × 1CPU辺りのコア数 (クアッドコア=4,デュアルコア=2,シングルコア=1)

### ・シングルコアの場合

総コア数	1	2	3~4	5~6	7~8	9~16	17~32	33~64	65以上
必要CU数	0	1	2	4	6	8	16	32	別途調整

### ・デュアルコア以上の場合

総コア数	~2	~4	~6	~8	10~16	18~32	34~64	66以上
必要CU数	0	1	4	6	8	16	32	別途調整

例) Standard-Jを物理CPU(それぞれがデュアルコア)を2つ搭載したマシンにインストールする際

総コア数 = 2 × 2 = 4となり、必要CU数は1つとなる。よって以下を購入すればよい

WebOTX Standard-J Edition V6.5 x 1

WebOTX Standard-J Edition V6.5 追加CU x 1

## 1.5.WebOTX Standard-J Edition V6.5を除く、V6.5のWebOTX製品の場合

**対象製品：**

- WebOTX Standard Edition V6.5以前
- WebOTX Enterprise Edition V6.5以前
- WebOTX Object Broker C++ V8.5以前
- WebOTX Object Broker Java™ V8.5以前
- WebOTX Enterprise Service Bus V6.5以前
- WebOTX Process Conductor V6.5以前
- WebOTX Standard-J Edition V6.4以前

**算出方針：** 総コア数で計算。

総コア数 = 物理CPU数 × 1CPU辺りのコア数(クアッドコア=4,デュアルコア=2,シングルコア=1)

総コア数	1	2	3~4	5~6	7~8	9~16	17~32	33~64	65以上
必要CU数	0	1	2	4	6	8	16	32	別途調整

例) **Standard**を物理CPU(それぞれがクアッドコア)を4つ搭載したマシンにインストールする際

総コア数 =  $4 \times 4 = 16$ となり、必要CU数は8つとなる。よって以下を購入すればよい

**WebOTX Standard Edition V6.5** x 1

**WebOTX Standard Edition V6.5 CU License** x 8

## 2. クラスタ環境構築時

### 片方向スタンバイ型クラスタシステム

2.1. 待機系ライセンスがある製品 

… 待機系は**Standby**製品を購入

2.2. その他製品 

… 2台目も同一製品を購入

### 両方向スタンバイ型クラスタシステム

2.2. すべての製品 

… 2台目も同一製品を購入

### ホットスタンバイ型クラスタシステム

2.2. すべての製品 

… 2台目も同一製品を購入

## 2.1.待機系ライセンスがある製品を片方向スタンバイ型クラスタ構成で利用する場合

**対象製品：** WebOTX Application Server Standard Edition V7.1以降  
 WebOTX Application Server Enterprise Edition V7.1以降  
 WebOTX 業務拡張オプション V8.2以降  
 WebOTX Batch Server V8.3以降

**購入方針：** 稼動系は通常製品、待機系は以下の**Standby製品** (通常製品の半額)を購入

稼動系用の通常製品に対して待機系用のStandby製品には、品名に「for Standby System」が含まれています。

	稼動系 (通常製品 命名)	待機系 (Standby製品 命名規則)
マシンライセンス製品	品名 バージョン	品名 for Standby System バージョン
CUライセンス製品	品名 バージョン CU License	品名 for Standby System バージョン CU License

待機系ライセンスの設定の無い製品には、Standby製品は存在しません。

例) **Enterprise Edition**を物理**CPU**(それぞれがデュアルコア)を4つ搭載したマシン2台にインストールし、これらで片方向スタンバイ型クラスタシステムを組む場合、以下を購入すればよい。

・稼動系

WebOTX Application Server Enterprise Edition V7.1	x	1
WebOTX Application Server Enterprise Edition V7.1 CU License	x	6

・待機系

WebOTX Application Server Enterprise Edition for Standby System V7.1	x	1
WebOTX Application Server Enterprise Edition for Standby System V7.1 CU License	x	6

## 2.2.その他の場合

- 対象製品:**
- 両方向スタンバイ型、あるいは、ホットスタンバイ型クラスタシステム構成の、すべての製品
  - 片方向スタンバイ型クラスタシステム構成で下記以外の製品利用時
    - WebOTX Application Server Standard Edition V7.1以降
    - WebOTX Application Server Enterprise Edition V7.1以降
    - WebOTX 業務拡張オプション V8.2以降
    - WebOTX Batch Server V8.3以降
- 購入方針:** 2台目も同一製品を購入

例) **WebOTX Enterprise Edition V6.5**を物理CPU(それぞれがデュアルコア)を4つ搭載したマシン2台にインストールし、これらで片方向スタンバイ型クラスタシステムを組む場合、以下を購入すればよい。

・稼動系

<b>WebOTX Enterprise Edition V6.5</b>	x	1
<b>WebOTX Enterprise Edition V6.5 CU License</b>	x	6

・待機系(稼動系と同じ製品の購入が必要)

<b>WebOTX Enterprise Edition V6.5</b>	x	1
<b>WebOTX Enterprise Edition V6.5 CU License</b>	x	6

## 3.仮想マシン利用時

### WebOTX AS Foundation V8.2以降


- 3.1. 複数のOSを稼働させる場合 


… 物理ホスト単位で基本ライセンス、追加ライセンスを計算する
- 3.2. クラスタ構成を構築する場合 


… 同一物理ホスト内であれば、待機系は追加購入不要
- 3.3. 割り当てCPU数が変化する場合 

… 割り当ての配分に関係なく、物理ホスト単位で計算する

### その他製品

- 3.4. 複数のOSを稼働させる場合 

… 各仮想OSに割り当てられているCPU数で計算する
- 3.5. クラスタ構成を構築する場合 

… 待機系はStandby製品を購入
- 3.6. 割り当てCPU数が変化する場合 

… 各仮想OSに割り当てられている最大稼働CPU数で計算する

### 3.1. 仮想マシン上で複数のOSを稼働させる場合 (WebOTX AS V8.2以降)

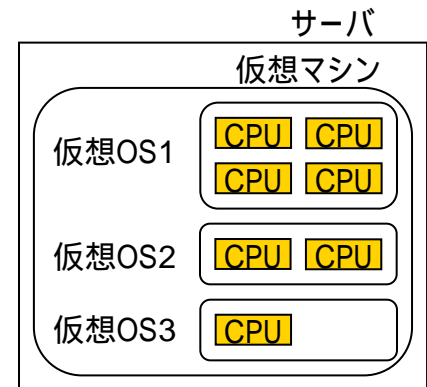
**対象製品:** WebOTX AS Foundation V8.2以降  
WebOTX AS Standard V8.2以降  
WebOTX AS Enterprise V8.2以降

**算出方法:** 物理ホスト単位で基本ライセンス、追加ライセンスを計算  
**CU License**は各仮想OSに割り当てられている**CPU**数の合計で計算する。

例) 右の図のように仮想OSにCPUが割り当てられており、各仮想OSで以下のような製品を利用している場合

仮想OS1: WebOTX AS Standard V8.2  
仮想OS2: WebOTX AS Standard V8.2  
仮想OS3: WebOTX Administrator V8.2

**CPU**はすべてデュアルコアCPUとする。  
必要製品は以下のとおり。



**Standard:** 基本ライセンスはマシン1台なので1つだけ必要。追加ライセンスは仮想OS1と仮想OS2で合計6CPU利用。

つまり総コア数は6CPU x 2 = 12となり、**Standard**の**CU License**は8つ必要。

**Administrator:** Administratorはマシンライセンスなので、総コア数は関係なし。

WebOTX Application Server Standard Edition V8.2	x 1
WebOTX Application Server Standard Edition V8.2 Virtual CU License	x 8
WebOTX Administrator V8.2	x 1

### 3.2. 複数の仮想OSを利用して、クラスタ構成を構築した場合 (WebOTX AS V8.2以降)

対象製品: **WebOTX AS Standard V8.2以降**  
**WebOTX AS Enterprise V8.2以降**

算出方法: 同一物理ホスト単位でクラスタ構成を構築した場合、待機系分の製品は必要なし。  
 ただし現用と待機で別物理サーバの場合、片方向スタンバイクラスタ構成であれば、**Standby**製品が利用可能。

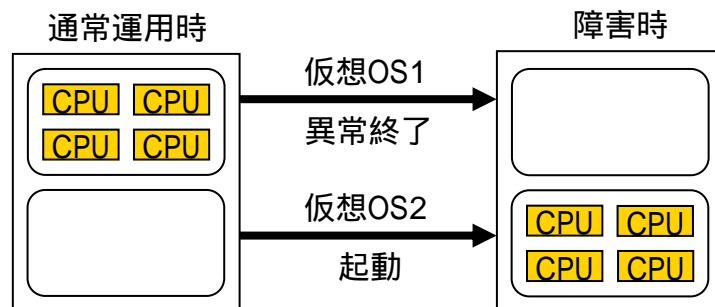
例) 同一物理ホスト内で右の図のような仮想OSの構成とし、各仮想OSで以下のような製品を利用している場合

仮想OS1: **WebOTX AS Standard V8.2**  
 仮想OS2: **WebOTX AS Standard V8.2**

**CPU**はすべてデュアルコアCPUとする。  
 必要製品は以下のとおり。

現用サーバ: **4CPU**利用(通常運用時)、つまり総コア数は8となる。**StandardのCU License**は6つ必要  
 待機サーバ: 同一物理ホスト内で合計使用CPU数に変更はないため、追加のライセンスは不要

<b>WebOTX Application Server Standard Edition V8.2</b>	<b>x 1</b>
<b>WebOTX Application Server Standard Edition V8.2 Virtual CU License</b>	<b>x 6</b>





### 3.3. 複数の仮想OSを利用して、割り当てCPU数が変化する場合 (WebOTX AS V8.2以降)

**対象製品：** WebOTX AS Foundation V8.2以降  
WebOTX AS Standard V8.2以降、WebOTX AS Enterprise V8.2以降

**算出方法：** 割り当ての配分に関係なく、物理ホスト単位で計算する。

例) 右の図のような仮想OSの構成とし、各仮想OSで  
以下のような製品を利用している場合

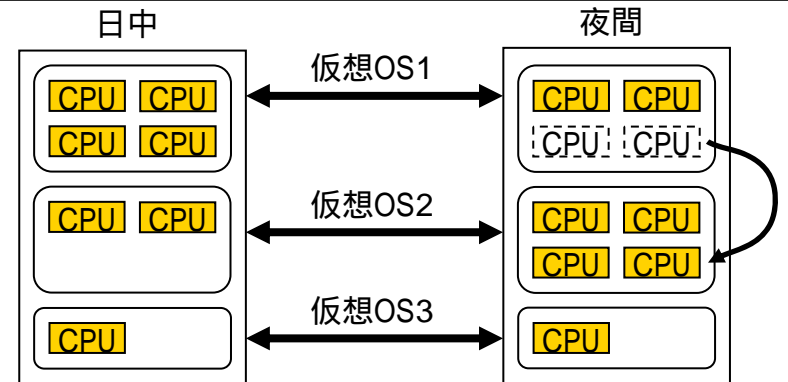
仮想OS1: WebOTX AS Standard V8.2  
仮想OS2: WebOTX AS Standard V8.2  
仮想OS3: WebOTX Administrator V8.2

CPUはすべてデュアルコアCPUとする。  
必要製品は以下のとおり。

**Standard:** 基本ライセンスはマシン1台なので1つだけ必要。追加ライセンスは仮想OS1と仮想OS2でCPUの配分は異なるが、どちらも合計6CPU利用。  
つまり総コア数は6CPU x 2 = 12となり、StandardのCU Licenseは8つ必要。

**Administrator:** Administratorはマシンライセンスなので、総コア数は関係なし。

WebOTX Application Server Standard Edition V8.2	x 1
WebOTX Application Server Standard Edition V8.2 Virtual CU License	x 8
WebOTX Administrator V8.2	x 1

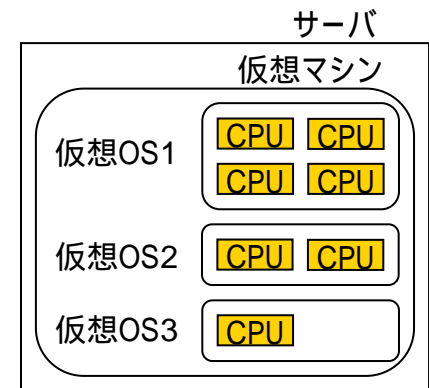


### 3.4. 仮想マシン上で複数のOSを稼働させる場合 (WebOTX AS V8.2以降を除く、その他WebOTX製品)

対象製品: **WebOTX AS Foundation以上の製品を除くすべての製品**  
 算出方法: 各仮想OS毎に製品が必要  
**CU Licenseは各仮想OSに割り当てられているCPU数で計算する。**

例) 右の図のように仮想OSにCPUが割り当てられており、各仮想OSで  
 以下のような製品を利用している場合  
 仮想OS1: **Standard Edition V7.1, Enterprise Service Bus V7.1**  
 仮想OS2: **Standard Edition V7.1**  
 仮想OS3: **Administrator V7.1**

**CPUはすべてデュアルコアCPUとする。**  
 必要製品は以下のとおり。



仮想OS1: **4CPU**利用、つまり総コア数は8となる。Standard, ESBのCU Licenseは6つ必要  
 仮想OS2: **2CPU**利用、つまり総コア数は4となる。StandardのCU Licenseは2つ必要  
 仮想OS3: Administratorはマシンライセンスなので、総コア数は関係なし。

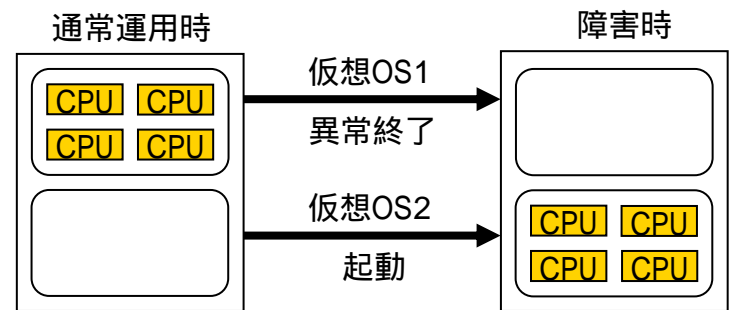
WebOTX Application Server Standard Edition V7.1	x 2
WebOTX Application Server Standard Edition V7.1 CU License	x 8
WebOTX Enterprise Service Bus V7.1	x 1
WebOTX Enterprise Service Bus V7.1 CU License	x 6
WebOTX Administrator V7.1	x 1

### 3.5. 複数の仮想OSを利用して、クラスタ構成を構築した場合 (WebOTX AS V8.2以降を除く、その他WebOTX製品)

対象製品: **WebOTX AS Foundation**以上の製品を除くすべての製品  
 算出方法: 各仮想OS毎に製品が必要。  
 ただし片方向スタンバイクラスタ構成の場合には、  
**Standby**製品が利用可能。

例) 右の図のような仮想OSの構成とし、各仮想OSで  
 以下のような製品を利用している場合  
 仮想OS1: **Standard Edition V7.1**  
 仮想OS2: **Standard Edition V7.1**

**CPU**はすべてデュアルコア**CPU**とする。  
 必要製品は以下のとおり。



仮想OS1: **4CPU**利用(通常運用時)、つまり総コア数は8となる。**Standard**の**CU License**は6つ必要  
 仮想OS2: **4CPU**利用(障害時)、つまり総コア数は8となる。**Standard**の**CU License**は6つ必要。  
 ただし、片方向スタンバイクラスタ構成となるため、**Standby**製品が利用可能。

<b>WebOTX Application Server Standard Edition V7.1</b>	<b>x 1</b>
<b>WebOTX Application Server Standard Edition V7.1 CU License</b>	<b>x 6</b>
<b>WebOTX Application Server Standard Edition for Standby System V7.1</b>	<b>x 1</b>
<b>WebOTX Application Server Standard Edition for Standby System V7.1 CU License</b>	<b>x 6</b>

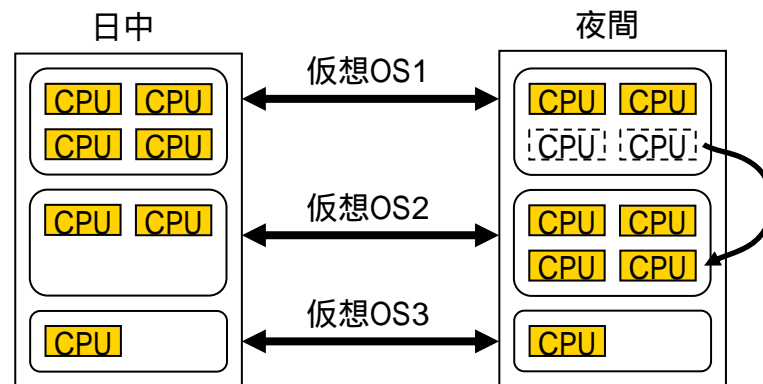
### 3.6. 複数の仮想OSを利用して、割り当てCPU数が変化する場合 (WebOTX AS V8.2以降を除く、その他WebOTX製品)

対象製品: **WebOTX AS Foundation**以上の製品を除くすべての製品  
 算出方法: 各仮想OS毎に製品が必要。  
**CU License**は各仮想OSに割り当てられている最大CPU数で計算する。

例) 右の図のような仮想OSの構成とし、各仮想OSで以下のような製品を利用している場合

- 仮想OS1: **Standard Edition V7.1,**  
**Enterprise Service Bus V7.1**
- 仮想OS2: **Standard Edition V7.1**
- 仮想OS3: **Administrator V7.1**

CPUはすべてデュアルコアCPUとする。  
 必要製品は以下のとおり。



仮想OS1: 最大4CPU利用(日中)、つまり総コア数は8となる。Standard, ESBのCU Licenseは6つ必要  
 仮想OS2: 最大4CPU利用(夜間)、つまり総コア数は8となる。StandardのCU Licenseは6つ必要  
 仮想OS3: Administratorはマシンライセンスなので、総コア数は関係なし。

WebOTX Application Server Standard Edition V7.1	x	2
WebOTX Application Server Standard Edition V7.1 CU License	x	12
WebOTX Enterprise Service Bus V7.1	x	1
WebOTX Enterprise Service Bus V7.1 CU License	x	6
WebOTX Administrator V7.1	x	1

## 4.1. Hyper-Threading対応CPU利用時

対象製品： すべての**CU**ライセンス製品

算出方法： 物理**CPU**数で計算

一つの物理**CPU**を二つの**CPU**に仮想的に見せているだけなので、  
ライセンス上は物理**CPU**数で計算する。

例) **Standard Edition**を物理**CPU**(デュアルコア)を2つ搭載したマシンにインストールする際  
(**Hyper-Threading**により8つの論理**CPU**となっている)

総コア数は4となり、必要**CU**数は2つとなる。よって以下を購入すればよい

<b>WebOTX Application Server Standard Edition V7.1</b>	<b>x</b>	<b>1</b>
<b>WebOTX Application Server Standard Edition V7.1 CU License</b>	<b>x</b>	<b>2</b>

**Ver4.2**以前の**WebOTX**を**Hyper-Threading**(以下、**HT**)のマシンでご使用の場合、  
正しくライセンス登録していても「ライセンス不足」の警告ログが出力される場合があります。  
この場合、**NEC**から、差分の「追加**CU**ライセンス」をご提供させていただきます。  
こちら([info-webotx@isd.jp.nec.com](mailto:info-webotx@isd.jp.nec.com))までご連絡ください。

## 4.2. Express5800/ftサーバ利用時

対象製品： すべての**CU**ライセンス製品

算出方法： 論理**CPU**数で計算。

**CPU**が二重化され同期動作することにより、論理的には(アプリケーション見えとしては)、一つの**CPU**として見える。  
可用性のため**CPU**が二重化されているが、**CPU**能力としては一つの**CPU**相当となるため、ライセンス上は論理**CPU**数で計算する。

例) **Standard Edition**をデュアルコア**CPU**を2つ(それぞれ二重化され合計**4CPU**)搭載した  
**Express5800/ft**サーバマシンにインストールする際

論理CPU数は2(総コア数は4)となり、必要CU数は2つとなる。よって以下を購入すればよい

<b>WebOTX Application Server Standard Edition V7.1</b>	x	1
<b>WebOTX Application Server Standard Edition V7.1 CU License</b>	x	2

**Express5800/ft**サーバの詳細については以下を参照してください。  
<http://www.express.nec.co.jp/pcserver/products/ft/index.html>

### 4.3. SigmaSystemCenter利用時

対象製品: すべての製品

算出方法: 管理サーバに格納しておく、ディスクイメージ毎に製品が必要。

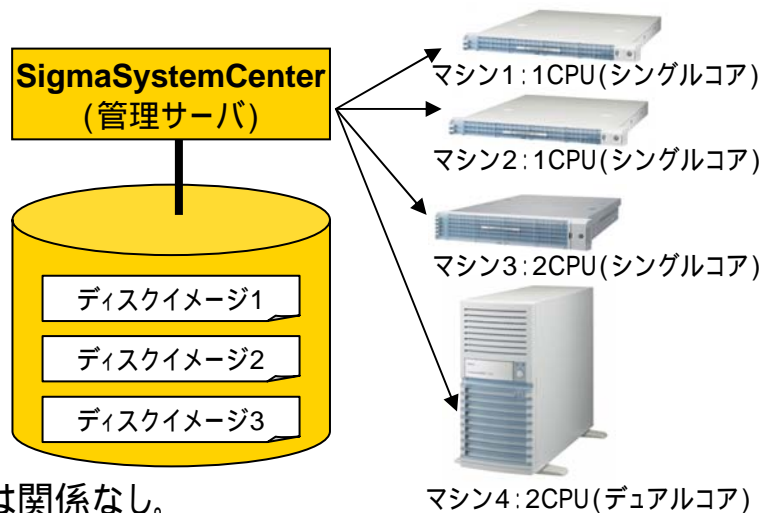
SigmaSystemCenterでは予め管理サーバにOS、AP、パッチ等がインストールされたディスクイメージが格納されており、必要となったときに動作サーバにインストールされ動作し、必要がなくなった時点で動作サーバからアンインストールされる。これらのディスクイメージが同時に2台以上のマシンで利用されることはないため、ディスクイメージ毎に製品購入すればよい。ただし、動作サーバによりCU License数が異なる場合には最大数分購入する必要がある。

例) 右図の構成で、下記の各ディスクイメージはマシン1～4にインストールされる可能性がある場合。

- ディスクイメージ1: **Standard Edition**
- ディスクイメージ2: **Standard Edition**
- ディスクイメージ3: **Administrator**

必要製品は以下のとおり。

- ディスクイメージ1: 総コア数4(マシン4)が最大であるため、CU Licenseは2つ必要
- ディスクイメージ2: 総コア数4(マシン4)が最大であるため、CU Licenseは2つ必要
- ディスクイメージ3: マシンライセンスのため、総コア数は関係なし。



WebOTX Application Server Standard Edition V7.1	x	2	
WebOTX Application Server Standard Edition V7.1 CU License	x	4	
WebOTX Administrator V7.1	x	1	

SigmaSystemCenterの詳細は  
以下を参照してください

<http://www.nec.co.jp/sigmasystemcenter/>



信頼性、柔軟性、サポート  
3つの安心でお客様のシステムを支えます！！

# WebOTX

お問い合わせ先  
**NEC 第三ITソフトウェア事業部**  
**Tel: 044-431-7632**  
**mailto:info-webotx@isd.jp.nec.com**  
製品ホームページ  
<http://www.nec.co.jp/WebOTX/>





## 改版履歴

版数	改版内容	改版日時
初版		2007年7月
第二版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮想マシン利用時のパターンを追加</li> <li>・Hyper-Threading利用時の警告メッセージに関する注意書きを追加</li> <li>・ハイパーリンクの誤りを修正</li> </ul>	2008年3月
第三版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・V8.2のマルチコア計算方式について追記</li> <li>・7月出荷予定の製品(WebOTX Portal, WebOTX Enterprise Service Bus)を追加</li> </ul>	2009年6月
第四版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・V8.22の仮想化ライセンスの計算方式について追記</li> <li>・最初の4つのライセンス体系の説明を追記</li> </ul>	2010年2月
第五版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本ライセンスが物理マシン単位で必要であることを明記</li> <li>・マシンライセンスを仮想マシンにインストールした際の考え方を明記</li> <li>・3.1, 3.3に誤って含まれていたWebOTX AS Expressを削除</li> </ul>	2010年4月
第六版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WebOTX Batch Server, 業務拡張オプションを追加</li> <li>・同一物理ホスト内の仮想OS間でクラスタを構築する場合の考え方を明記(3.2)</li> </ul>	2010年6月
第七版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問い合わせ先を変更</li> <li>・本資料のタイトルを変更</li> </ul>	2010年12月

Empowered by Innovation

**NEC**